

1 洪水ハザードマップから避難を考える

1 災害に対する心得

災害を他人事ではなく、自分のこととして捉え、日頃から「いざという時」の備えをしておくことが重要です。

「大雨の発生頻度が高まっている」ことを知る

気候変動により雨の降り方が変化し、全国的に大雨による災害が発生しています。



「もし洪水が発生したら」をイメージする

起こるかもしれない洪水を事前に考えることから、命を守る行動が始まります。

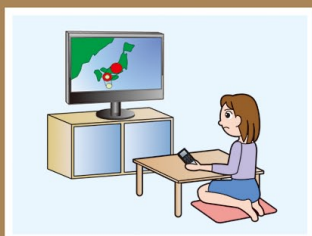
「自分の命は自分で守る」 「自分たちの地域は自分たちが守る」

いざという時、自分の命を守るのは自分自身であるという基本認識や、地域内での相互の助け合いが重要です。



「気象情報や河川の情報」を探す

気象情報、降雨量、河川の水位など避難行動に必要な最新情報を得ることが大切です。テレビやインターネットから刻々と変化する状況を手でできます。

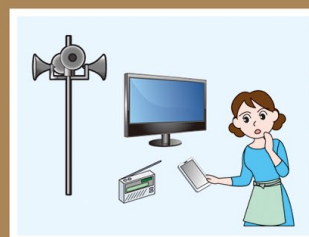


洪水は、地震と違って急に起こるものではないんだよ。だから、事前の備えがあれば、あわてずに避難できるんだ。さあ、ハザードマップを見てみよう!



「避難に関する情報」を得る

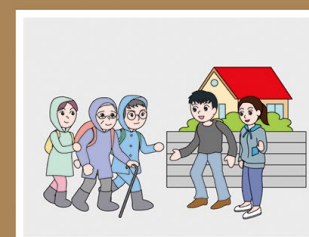
市から発令する避難指示などの避難情報は、テレビ・やいづ防災メール・焼津市LINE・同報無線など様々な方法で発信されます。



「避難」とは何かを知る

避難とは「難」を「避」けることで、避難所に行くことが全てではありません。今いる場所が安全であれば、そこに留まることができます。また、安全な場所であれば、自宅や親戚宅、知人宅、宿泊施設も避難先となります。

Point!



要配慮者利用施設^{※1}の管理者や利用者の皆さんは、事前に浸水深などを確認し、避難方法を話し合っておきましょう。なお、要配慮者利用施設では「避難確保計画」の作成が必要となります。

焼津市 避難確保計画

検索



※1:「要配慮者利用施設」とは、災害時に特別な配慮を要する方々が利用する施設で、社会福祉施設や医療施設などです。

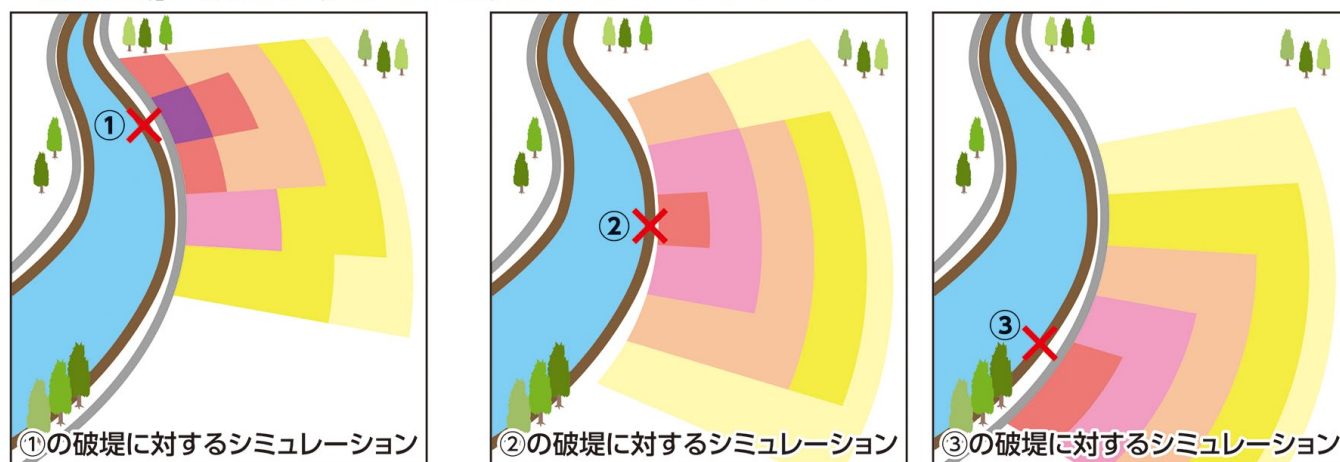
2 洪水ハザードマップ(地図面)の情報

洪水浸水想定区域図

洪水ハザードマップには、洪水浸水想定区域図が表示されています。これは、**想定最大規模の降雨**※による氾濫シミュレーションを行い「浸水範囲」や「浸水深さ」を色分けして表示したものです。

氾濫シミュレーション

●「×箇所」が破堤したと仮定して、氾濫状況をシミュレーションします。



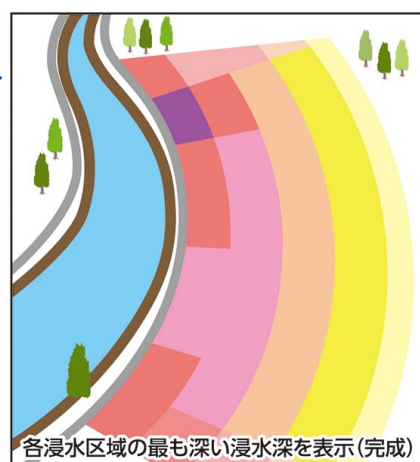
洪水浸水想定区域図

●各浸水区域の最も深い浸水深を表示します。

①～③を重ね合わせる

【重要】

焼津市洪水ハザードマップでは、**対象河川ごとの洪水浸水想定区域図を重ね合わせています。**したがって、一度の洪水ですべての範囲が浸水するということではありません。また、色がついていない場所でも高潮などの要因により、浸水する可能性があります。



河川ごとの浸水範囲や浸水深さなどを知りたい

Web版焼津市洪水ハザードマップで確認できます。
(パソコン・スマートフォン対応)

焼津市 洪水ハザードマップ

検索



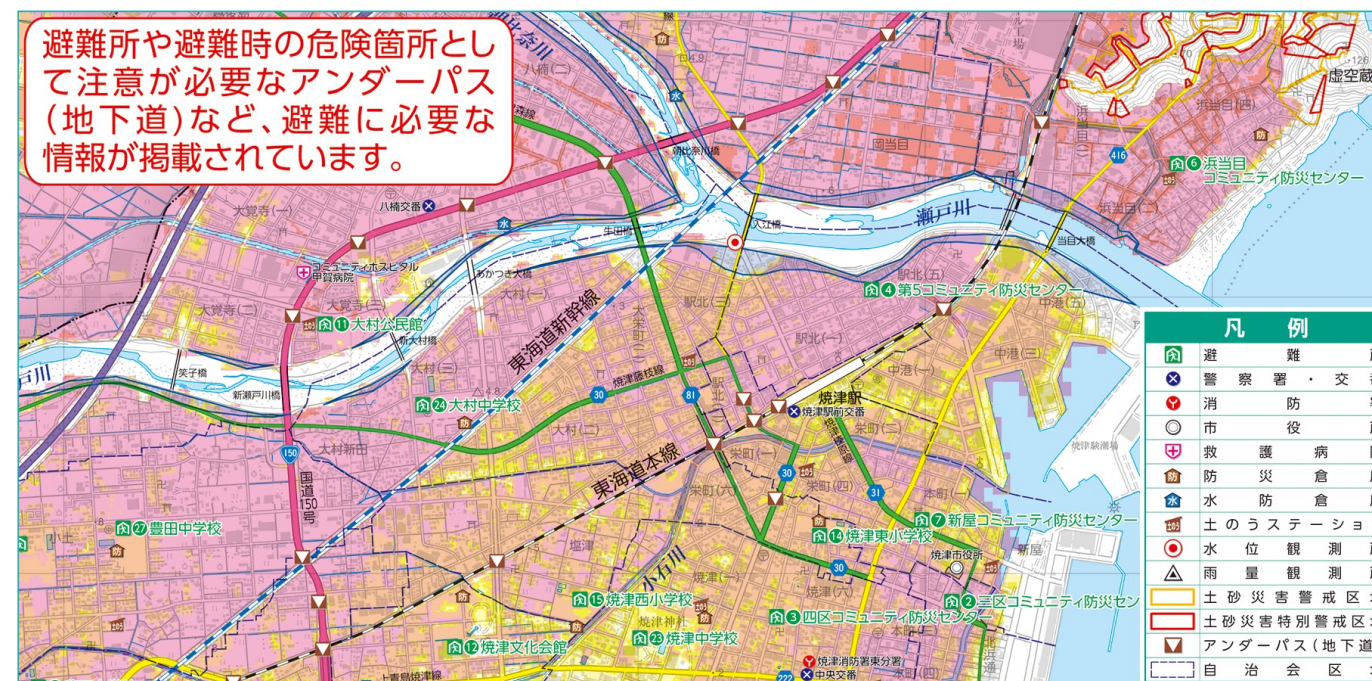
※想定最大規模の降雨とは

1000年に1回程度の確率で降る大雨

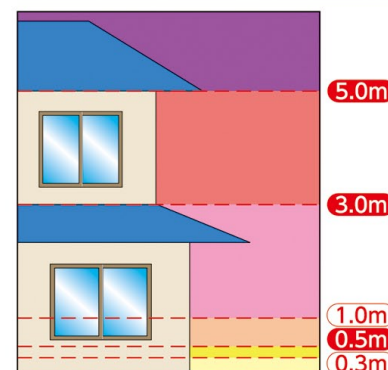
発生する確率は、極めて低いものですが、近年の水害の激甚化を踏まえ最大規模の降雨を想定したものです。

掲載されている内容

避難所や避難時の危険箇所として注意が必要なアンダーパス(地下道)など、避難に必要な情報が掲載されています。



「浸水深」について



浸水深の目安には、次の意味があります。

- 5.0m: 一般的な家屋の2階が水没する高さです。
- 3.0m: 一般的な家屋の2階床下高です。これを超える場合は、2階への避難が危険となるおそれがあります。
- 0.5m: 一般的な家屋の1階床高です。これを超える場合は、床上浸水のおそれがあります。

家屋倒壊等のおそれのある区域

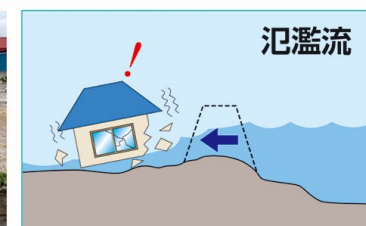
川沿いの地域では、堤防が決壊した場合の激しい流れにより家屋が倒壊する区域(氾濫流)や、激しい流れにより堤防や地盤が削られることが想定される区域(河岸侵食)があります。この区域を「**家屋倒壊等氾濫想定区域**」といいます。

この区域では、確実に安全な場所へ移動する立退き避難(水平避難)が必要です。

(地図上の表示)

氾濫流(紫色)

【区域が存在する河川】
大井川



河岸侵食(濃藍色)

【区域が存在する河川】
大井川・瀬戸川・朝比奈川・栃山川・木屋川

